

六月になって、非常事態宣言が解除された今、心から喜ぶことができません。なぜなら、新型コロナウイルスが退散したわけでもない、まだまだ感染リスクがあり、油断すれば、感染する危険があるからです。今までの生活の様式を改めることが、感染リスクが少なく、なるということ

もう、コロナ感染以前のような生活には戻れないということ。これまで同様に学校、職場、外出先で互いに距離をとって、過ごすことが必要です。とくに近距離でのおしゃべり、会食には感染の危険性が潜んでいます。いわゆる3密の回避は必要です。

現在行われているテレワークで仕事をするようになってきています。未来に命を受け継いでいくために、今、私たちができることを考えることです。今までのように自分勝手な生き方は慎まなければなりません。いかに子孫のために何をなすべきかを考え、実践していきましょう。



◇マスク、手洗い習慣の継続を

コロナにかかわらず、病気を移さない、もらわないことを徹底するために、手洗い、うがい、そしてマスク着用の習慣を継続することだと考えます。風邪とかインフルエンザが流行した時には多くの人々はそうしませんか。もう流行がおさまったから、もういいよ。と普段の「暮らしに戻ったことで、手洗い、うがい、マスクの着用を忘れたかのようになっています。

この世は、人と人が交わり合って生きています。最低限、エチケットを守り、人間生きていくためのルールを作ることです。誰も孤独で

は生きていけないです。他人に励まされたり、叱られたり、ほめあうことがあって、人間らしく生きていけるのです。良好な人間関係は、ともに成長して、そして年を取って行くのであります。

仏陀の小ばなし

いつまねをする？

今日は祝日です。この国の王様は青いハスの花がお気に入りでお祝いの日に女性が全員青いハスの首飾りをするようになっていきます。その前日のことです。ある女性が一人の男にこう言いました。

「私のために青いハスの花を持ってきてくれたら結婚してあげますよ。もしできなったら、これでお別れです。」

言われた男は、オシドリのなき声の真似が得意でした。そこで王宮の池に入って「ビュイ、ビュイ」と鳴きまねをして青いハスを盗みました。その時、番人が怪しんで声を掛けました。

「池にいるのは誰だ」「私はオシドリです」「オシドリがしゃべるか」この男は捕まりました。連れていかれる途中でも「ビュイ、ビュイ」と、今頃、鳴きまねをしてどうなる。

仏のおしえ

人は悪事を働きます。よいことをしようと思ってもなかなかできません。いよいよ命が終わろうとしているときによいことをしたいと思っても、はやできません。結局、閻魔様の前で裁かれることとなります。



お盆の行事

※混雑されることを予想して、今年も六日(水)より墓参りを始めます。

八月六日(水)から十二日(水) お墓参り

午前五時半より午前十時

八月十三日(木) お墓参り

午前五時半から六時半 佐賀区
午前六時半から七時半 上寺区

八月十四日(日) 棚経参り

午前五時より午後八時になりますので、朝早い方、夕方以降になる方にはご理解ください。

八月十五日(土) 午前五時より

お盆のあいさつ受けをします。

御仏供米もしくは五百円、塔婆代二百円です。施餓鬼壇の下に設置するたらいの中に塔婆を入れて、水を捧げて、仏さまの供養をします。これについては、生きていく私たちが餓鬼におちることがないように、水を捧げ、焼香します。

八月十五日(土) 午後一時半 盆施餓鬼法要

有縁無縁の仏様の縁を結んで、家内安全と幸せを祈ります。※初盆を迎える方々には、亡き方を供養して、家族・親族の平安を祈りますので、是非ともお参りください。

合掌は他のために祈る姿

今年は、新型コロナウイルスで、人々に悩み多く、一体、この地球が減ってしまうのではないかと不安を感じられたのではないのでしょうか。私自身、命がいつ終わるのか悩み苦しみました。そして私は僧侶としてできることは如来の前で人々を無事を祈ることだと改めて知ることができました。

毎朝、毎夕、阿弥陀如来の御前で、お経を読み、仏様の真言を唱え、そして念仏を唱えて最後に

先祖供養と人々家内安全、息災そして所願成就を思い、新型コロナウイルスという疫病退散祈願を祈り続けることが、僧侶の仕事であります。人々に、伝えることをしなければ、宗教(仏教)がなくなることを危惧しています。

自然は神仏のご加護により守られていることを知らねばならないと考えます。神仏に感謝することは手と手を合わす。それが合掌の姿です。

合掌は他のために祈ることであり、お互いさまの心が感謝の心です。

その感謝には、心から祈るといふ行為であります。



具体的には、般若心経を讀んで後、手を合わして静かに祈ります。念仏を十返唱えて祈ります。祈りを捧げて、悪い心を追い払って、福を期待したいものです。これが信仰心だと考えます。

写経会を毎月していますので、希望される方には、お申し出てください。

びんずる会の活動に参加しませんか

写経、奉仕、座禅をして、心の修養をします。皆様のご参加をお待ちします。参加してみようと思われの方は、ご一報下さい。

発行者 高島市安曇川町田中三四五九

天台真盛宗玉泉寺

携帯 〇九〇一三七〇八一七二〇六

電話 〇七四〇一三二一〇七九一

ファックス 〇七七一五〇二一七一九

メール info@gyokusenji.com

ホームページ 滋賀高島石仏の玉泉寺
ブログ 玉泉寺住職日記